

## 基礎看護学実習

### 1. 実習目標

#### 1) 基礎看護学実習 I

- (1) 人間を形成するコミュニケーション能力を養う。
- (2) フィジカルイグザミネーションを用いて患者の状態をアセスメントしたうえで、日常生活の援助技術を実施できる。

#### 2) 基礎看護学実習 II

- (1) 看護実践を通して、看護を展開する基礎的方法を理解できる。

### 2. 実習構成

時期	区分	実習場所	単位
1年次	基礎看護学実習 I	病院実習	2単位
2年次	基礎看護学実習 II	病院実習	2単位

\*実習時間には、実習ゼミ時間等の時間を含む

### 3. 実習内容

#### 1) 基礎看護学実習 I

##### (1) 実習内容

実 習 内 容	
1. 対象者に起きている健康問題について生活の視点から考える。	<ol style="list-style-type: none"> <li>1) 対象者の健康問題に関する情報を収集し、項目ごとに整理する。</li> <li>2) 対象者の健康問題の受け止め方を把握する。</li> <li>3) 入院前後の日常生活の変化について入院・治療・病態生理・ADLの自立度から考える。</li> </ol>
2. 生活の視点から対象者の1日の目標を考える。	<ol style="list-style-type: none"> <li>1) 対象者の状態に沿った1日の目標を考える。</li> </ol>
3. 得られた情報から日常生活の援助を考える。	<ol style="list-style-type: none"> <li>1) 得られた情報から日常生活援助の必要性和目的を考える。</li> <li>2) 援助の必要性和目的に応じた日常生活援助の方法と留意点を考える。</li> </ol>
4. 日常生活の援助を原理・原則をふまえて実施できる。	<ol style="list-style-type: none"> <li>1) 室温・空気の調整及び対象者に配慮した病床とその周辺への療養環境の調整を行う。</li> <li>2) 日常生活の援助を原理・原則をふまえて実施する。 *日常生活の援助：資料1参照</li> <li>3) 日常生活の援助が対象者及び実施者の安全・安楽を考慮して実施する。</li> </ol>
5. 日常生活援助に必要な観察を実施する。	<ol style="list-style-type: none"> <li>1) バイタルサインの測定を行う。</li> <li>2) フィジカルイグザミネーションを用いて患者の状態をアセスメントする。</li> <li>3) 実施前・中・後の観察の必要性和その根拠に基づいた対象者の観察を行う。</li> </ol>
6. 日常生活援助後に振り返りを行う。	<ol style="list-style-type: none"> <li>1) 日常生活援助後に目的に対する評価と方法について振り返りを行う。</li> </ol>

7. 対象者と適切なコミュニケーションをとることができる。	1) 対象者と日常生活援助を行うためのコミュニケーションを行う。
8. 看護師としての基礎的態度を身につける。	1) 時間・約束を守る。 2) 実習進度に応じた必要な学習課題を行う。 3) 他者を尊重した態度で実習に臨む。 4) 報告・連絡・相談を行う。 5) 自己の健康管理を行い、欠席・遅刻をしない。 6) 自己の考えや意見を他者に表現する。 7) 用途や対象者に応じた適切な言葉を使う。 8) チームで協力して活動する。 9) 個人情報を適切に管理する。